

# 特集

## 自己点検・評価に取り組むクラブ

### NPO法人エンジョイスportsクラブ魚沼 ＜新潟県魚沼市＞

自立・自律したクラブへと至るためには、クラブ理念を踏まえ、将来的な到達点を明確にした目標を設定する必要があります。そして、その達成に向けた具体的な取組計画を策定した上で、計画に基づく活動を着実に実行し、その内容及び効果を定期的に検証することによって常に改善を図っていくといったPDCAサイクルによって取り進めることが重要です。

そこで、今回は、日本スポーツ協会が2014年度に作成した「持続可能な総合型クラブの推進に向けた取組の指針と評価指標(以下「自己点検・評価」という。)」の活用方法と実際に「自己点検・評価」を活用するクラブの事例を紹介します。



#### 1 クラブ概要

##### 安定経営目指し設立準備に3年の歳月

平成9年に、体育指導委員事業(現スポーツ推進委員)の参加者減が月例会議で取り上げられ、個人のスポーツの価値観の変化に対応するため、総合型地域スポーツクラブの検討が始まりました。総合型クラブを正式に立ち上げる前に「子供スポーツクラブ」を平成11年に立ち上げ、その後、体育協会、スポーツ少年団、教師、公民館、地域スポーツ愛好者代表に呼びかけ、行政内に準備委員会を設置しました。クラブのあるべき姿を模索する中で、クラブ設立後にスポーツ振興くじの補助がなくなることから、安定経営のために運営資金の確保を中心に据え、設立準備に3年の年月をかけ万全を期したうえでクラブづくりを進めました。

## クラブ設立後15年間、自主財源率100%を継続

平成13年、14年とスポーツ振興くじの補助金を使い、社会体育事業と介護予防事業、すでに立ち上げた子供スポーツクラブなどのプレ事業のプログラムを行政に提案し、すべて受託事業として委託を受けました。クラブ全体の収入に占める受託プログラムの割合は85%、2700万円になります。平成15年クラブ設立後、15年間自主財源率100%を続けています。クラブの理念である、「子供たちをスポーツ好きにする活動」、「医療費、介護費用の削減」、「住民のだれもが気軽にスポーツに親しめる機会の提供」、「クラブに加入した既存団体支援と指導者育成」、「スポーツを通じた、健康で明るく活気に満ちたまちづくり」を実現するための資金はすべてここから生み出されます。

## 指定管理受託後に経費削減・業務見直し→器具備品を行政に寄付

平成19年からはスポーツ推進委員業務がクラブへ委託され、増えすぎた委員の削減を図るため「適正人数」を設定したほか、参加者に対する受益者負担の徹底等で、クラブは妥当な受託額の獲得、行政は大幅な予算削減を実現しました。さらに平成25年から体育館の指定管理を受託し、5年間で経費削減、業務見直しで生み出した資金で購入したランニングマシン5台やアリーナ照明ほか多数の器具備品を行政に寄付しました。設立時からプログラムにほとんど変化は無く、介護予防、健康づくりを中心に全くぶれないクラブ経営を続けて16年目を迎えます。

## 2 健全経営実現へ内部評価制度を採用

健全経営がクラブ理念を実現していくという考え方から、内部評価制度(定員充足率やアンケート等の評価)を平成23年から取り入れています。

### 参加者満足度などプログラム別に評価

プログラム名	登録者数(参加者)			定員充足率			参加者満足度(%)			事業全体評価			事務局所見	事業趨勢
	前々年	前年	今年	前々年	前年	今年	前々年	前年	今年	前々年	前年	今年		
高齢者筋力向上トレーニング事業400	425	422	384	106%	106%	96%	90%	90%	90%	4.2	4.2	4.2	市の委託内容が同じため、大きな変化なし	→
健康運動教室 小出15	16.7	16.3	16	111%	109%	107%	85%	85%	84%	4	3.9	4.3	参加者が固定化 条件評価はアンケートによる	→
健康運動教室 広神20	15	12.3	19	75%	62%	95%	78%	70%	84%				参加者数が回復 条件評価はアンケートによる	→
健康運動教室 守門20	13	10	11	65%	50%	55%							公民館事業が全く同じため廃止	↙
出前健康運動教室60		49	56		109%	86%		85%	79%				小平尾・入広瀬・伊米ヶ崎・千溝で開催 全会場好評	→

※プログラムの数字は定員数

このようにして、クラブの稼働率や参加者に対する満足度アンケート、事業条件によるトータル評価、そして事務局所見などを参考に、今後の方向性を見いだしています

### 経理ソフトを活用し経営分析→安全性をチェック

定員充足率や参加者に対する満足度アンケートなどの評価に加えて行っているのが、経理ソフトに備わっている経営分析機能です。プログラム別や全体の利益率、クラブの貯えの推移などの数字を基に、持続可能なクラブ運営のための安全性をチェックしています。

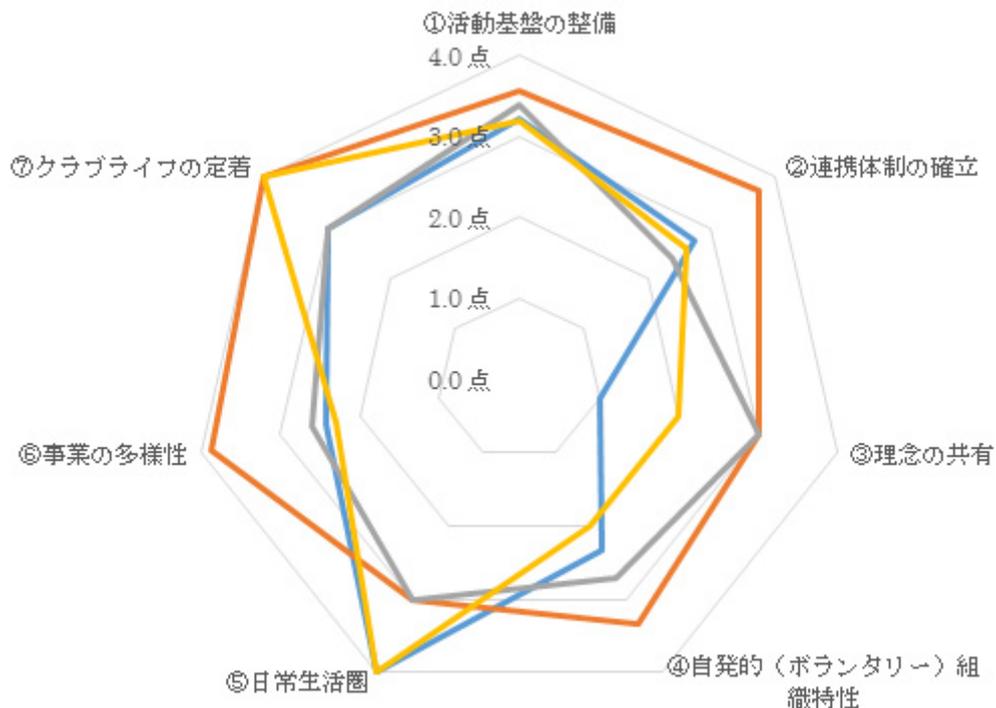
### 3 自己点検・評価を平成28年から導入

#### 内部評価を補うチェックシート7項目

今まで行った内部評価で決定的に足りない部分（チェックシートの7項目）は、クラブ構成に欠かせない要素です。まさにその部分が「自己点検・評価」で取り上げられている部分であり、「①活動基盤の整備 ②連携体制の確立 ③理念の共有 ④自発的（ボランティア）組織特性 ⑤日常生活圏 ⑥事業の多様性 ⑦クラブライフの定着」の各項目でした。そこで、平成28年から年に1度この自己点検を行うこととしました。

#### 常勤スタッフ4人がチェックシート記入

当クラブでは常勤スタッフ4名で別々にチェックシート記入し自己点検を行いました。



#### 総合型クラブの自己点検・評価の結果（7項目）

上記の図は4人がクラブの「自己点検・評価」を行った結果を一つのグラフに落とし込んだものです。

青：アドバイザー（経験20年） 黄：マネジャー（経験13年）

グレー：サブマネジャー（経験12年） 橙：新人スタッフ（経験3年）

### 結果を4人全員で分析

この結果をスタッフ全員で話し合い、分析を行いました。新人スタッフを除くと、経験豊富な人はほぼ同じ捉え方をしています。新人に関しては、大きな7角形を示しています。入社以来、アドバイザーから目指すクラブの在り方を新人に説明してきたことにより、良いところが象徴的に見えているのかもしれませんが、クラブのことが、まだよく見えていないのかもしれません。

### 理念の共有で認識異なる

大きく結果が違ったのは、理念の共有です。経験20年の青は極端に点数が低くなっています。低くなった理由としては、スタッフにより理念の共有方法や共有実感が異なること等と考えられます。

## 4 身の丈にあった経営規模を継続

### 更なる事業の拡大は現事業に支障も

この取り組みで4人が認識したことは、決して大きな7角形の結果でなくても良いのではないかとということでした。

私たちのクラブは、出来るだけ身の丈に合った経営規模でクラブの質を高めることにこだわってきました。例えば、⑥事業の多様性の面では、現時点ではこれ以上必要ないとの結論です。また、②連携体制の確立という面でも、連携先が更に増えることは今の事業に支障をきたすのではないかと判断に至りました。

### 複数の評価ツールを機能的に活用→クラブスタイルを見直し

様々な「自己点検・評価」の項目は、クラブを今後どのような形にしていきたいかというコンパスであり、「必要なもの、そうでないものの取捨選択」のツールだと思います。実際みんなで作業をしていく中で、私たちのクラブスタイルを見直すことができました。

クラブ理念を実現するための経営資金の確保、そして経営資源の確保。そのためのプログラム評価、経営指数評価、そしてこの「自己点検・評価」ツールをうまく組み合わせ、より個性的な持続可能クラブをつくっていきたいと思います。

NPO法人 エンジョイスポーツクラブ魚沼 アドバイザー 高木 貞介

## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成15年7月6日

**所在地** 新潟県魚沼市堀之内130番地

**運営** 会員数635名(平成29年7月現在)、予算規模3,240万円(平成29年度)

**有給職員** 4名

**特徴** 市町村合併後を見据えて設立し、合併後、旧町村単位の5地区のサテライト化でクラブ経営の効率化と運営資金確保を実現しているクラブです。運動好きな内科医の理事長、健康運動指導士のマネージャー、スポーツ専門学校出身で各種の資格を持つサブマネージャー、簿記に明るく社会体育畑を長年経験したアドバイザー、福祉分野の学部を卒業した新人スタッフなどのプロスタッフが揃っています。そのような多様な人材をベースに、行政と良好な関係を築いているクラブです。

**連絡先** 〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内130番地

電話 025-793-7166 FAX 025-793-7164

E-Mail [espo@espouonuma.com](mailto:espo@espouonuma.com)

URL <http://espouonuma.com/espowp/>



高齢者介護予防教室



ウォーキング



健康づくりプログラム



ダンス教室